

龍谷

Ryukoku

2016 No.82



CONTENTS

01 P01
Feature Article 巻頭特集 学長対談
里山的思考は
人を自由にする
藻谷 浩介 さん × 赤松 徹真 学長

02 P06
5長 News
世界仏教文化研究センター設置
学生交換協定校 80 大学突破

03 P08
People, Unlimited
収穫の成果を想像すると
育てるつらさもおもしろい
藤本 翔平 さん 農学部

P10
People, Unlimited
子どもの頃からの思いは続く
憧れの職業は消防士
上坂 彩恵 さん 経営学部

P12
People, Unlimited
子ども達に
「学ぶことの楽しさ」を伝えたい
中島 裕貴 さん 文学部

04 P14
Special Article 特別企画 同窓対談
学生時代ザイールの山中で
二人はばったり出会う
山極 壽一 さん × 末原 達郎 農学部長

05 P18
Education, Unlimited
現地学生と徹底的に議論
ハードな留学が学生を変える
松村 省一 教授 国際学部

P22
Education, Unlimited
論理的に思考できる
自立した市民の育成を
渡辺 博明 教授 法学部

06 P26
World, Unlimited
母国 カーヴォベルデの
経済発展の可能性を探る
レイサ・モレノ さん 経済学研究科

07 P30
Event Ryukoku Museum
800 年間本願寺が受け継いできた
法灯と至宝を今秋と来春、一堂に公開
石川 知彦 龍谷ミュージアム副館長

P32
Ryukoku Event
社会学部現代福祉学科開設記念講演会&シンポジウム
深草キャンパスに期日前投票所を設置
大宮図書館 2016 年度秋季特別展観

08 P34
People, Unlimited 龍谷人
素材をシンプルに活かす
料理は畑から始まっている
坂本 健 さん イタリアンレストラン cenci

P36
People, Unlimited 龍谷人
「知識で救える命がある」
ザンビアで保健教育に尽力
村上 優子 さん アフリカで国際支援に従事

P38
People, Unlimited 龍谷人
キャラクターグッズは
「手のひらにのるアトラクション」
上嶋 真二 さん 株式会社ユニー・エス・ジェイ

09 P40
News & Topics
最新情報

10 P45
Book Café
新刊紹介

01 | Feature Article

巻頭特集 学長対談

里山的思考は 人を自由にする

(株)日本総合研究所主席研究員

藻谷 浩介
×

龍谷大学学長
赤松 徹眞

Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 龍谷人

News &
Topics



藻谷 浩介 もたに こうすけ

(株)日本総合研究所主席研究員。(株)日本政策投資銀行地域企画部特任顧問(非常勤)。1964年山口県生まれ。平成合併前3,200市町村すべて、海外78カ国を自費で訪問し、地域特性を多面的に把握。2000年頃より地域振興や人口成熟問題に関し勢力的に研究・著作・講演を行う。2012年より現職。『里山資本主義』対話集『和の国富論』、『日本の大問題』ほか著書多数。

2010年に『デフレの正体』、2013年に『里山資本主義』を出版。マネー資本主義一辺倒への異議申し立てと脱却の方法を提示し、里山の可能性を世に知らしめた藻谷浩介氏が赤松学長と語る。

若い人ほど時代に敏感

赤松 『里山資本主義』は、お金だけでない価値を語り、新しい日本社会と地域のあり方を示すものでした。今の学生はバブルが崩壊した1990年代に生まれ、価値観が激変する真っただなかで、生きづらさと閉塞感を抱えて生きています。大学もまた葛藤を抱えて教育に向き合っています。若者や大学の現状をどうぞ覧になっていますか。

藻谷 若い人の方が時代の変化に敏感なのは、20代以下の若者は、「お金だけでは幸せに出来ない」と直感している。僕の本でも『デフレの正体』は経済人に多く読まれたが、『里山資本主義』は若い人が読者でした。最初は驚きましたが、でも御学の農学部を選ぶ若者もそうでしょう。「農学部っていいよね」というのは、僕が各地で出会う20代の子達に共通する感性です。

赤松 本学は昨春2015年4月、私立大学では35年ぶりに新たに農学部を開設しましたが、今年2年目を迎え、おっしゃるとおり学生も非常に元気がよく、時代に敏感ですね。志ある若者が、土に触れる身体体験から、命を支える食と農とその循環を見つめ、道理も人情も矛盾もひっくるめて、社会の持続可能性を追究しています。文理融合型で、土壌、バイオから管理栄養士をめざす学生まで、全学生が稲刈りや田植えを体験します。これからの管理栄養士はカロリー計算だけではいけないと考えるからです。

藻谷 さすが龍谷と言いたくなるご慧眼です。昔の農学部がめざしたものは食糧増産、カロリー生産でした。しかし御学のいう「食」はもっと大きなもの。今後の日本にとって非常に重要なものです。数値化された栄養素を過不足なく食べていけばOKという考え方では、日本の食を守ることはできません。団塊の世代が75歳を超える10年後までに、主として大都市圏で後期高齢者が急増します。つまり、福祉施設に入ったりデイサービスを利用したりして、家で自炊せず給食に依存する人口が、この先、急速に増えるのです。ところが、福祉施設の給食は管理栄養の世界です。そこに食糧はあるが、「食」はない。1円でも安く規定の栄養素を揃える発想はあっても、地産地消や里山的な循環を尊重する考えはないのです。食の全体像を総合的に把握した管理栄養士を、御学で育てておくことが、日本の食を守るために重要ですね。

「規格外」を受容できる しなやかな社会へ

藻谷 経済効率だけを求め、数値化できない価値を無視しているのは、給食の世界だけではありません。実は教育もそうで、偏差値などまさに管理栄養的です。ですが若者の個性や可能性も、里山的なものの価値と同じで、そもそも規格化できません。親鸞さんほどのお方とまではとても言いませんが、大なり小なり規格外の人はいられるものです。学校も、器の大小を測りたい人が一割くらいいるほうが、より面白くなりますよね。

赤松 本学でも徐々に顕在化していますが、新しくできた農学部などは尖った学生が多く、面白くなっている手応えがあります。しかし、総じて窮



赤松 徹眞 あかまつ てっしん（龍谷大学学長）

1949年奈良県宇陀市生まれ。

龍谷大学大学院文学研究科修士課程修了、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学（文学修士）。1984年龍谷大学文学部講師、1987年龍谷大学文学部助教授、1998年龍谷大学文学部教授、2005年龍谷大学教学部長、2007年龍谷大学文学部長、2011年4月学長に就任、現在に至る。専門は日本仏教史（日本仏教の歴史的な展開、現代仏教の可能性を研究）。

屈さが増しつつある今の時代、「自己を問う」という自分のさし出し方を知らない子どもが増えてきているのは確かです。自己肯定、自尊感情も大切ですが、一方で自分にとっての不都合さを直視する勇気もまた持ってほしい。ここをどうするかは大学にとっても悩ましい課題です。

藻谷 最近の大学生はものすごく「いい子」ですよ。僕は全国各地の種々雑多な大学で講演をしますが、御学に限らずその傾向は強く感じます。ただ若者は、大人の鏡ですよ。特に今のサラリーマン社会では、「余計なことを言わない」のが処世術。「田舎はしがらみがないへんだ」と言いますが、同等以上のしがらみが都会の大企業や大組織にもあって、社員はそれゆえに、無駄な会議や満員電車をひたすら我慢しているのです。

赤松 これからの時代、里山資本主義で提案されているような、バランスよく里山や田舎と往来したり交流したりする生活スタイルが大切になっていきそうです。

藻谷 上の世代は、田舎と都会の両方を知っていて都会を選んだわけですが、都会育ちの団塊ジュニア以下は都会しか知りません。親は数十年前に経験した田舎の問題を言い続けるが、実は今の田舎の生活の質は相当に高い。一方、都会の無産者は、全てをお金に換算する労働と消費に縛りつけられている。都会しか知らない人は、一度、今の田舎をお試し利用してみるといいでしょうね。

赤松 都市の生活は身体性が失われますが、田舎だと身体に感じて吸収するものがあります。本学の学生に限らず、若者にはぜひそう

いう体験も含めて、豊かな体験を重ねて成長してほしいと願っています。

藻谷 御学はみやこの真中にありながら里山にも近い。絶好のロケーションです。しかもそもそも最初に「里山学」を掲げて研究を始めたのは御学ではなかったでしょうか。

赤松 1989年に瀬田学舎が開学し、2004年には研究拠点として、里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター（現・里山学研究センター）を開設しました。他大学でも類似の取り組みはなされていましたが、確かに「里山学」を冠した講義や研究センターを設立したのは本学が最初です。

藻谷 それなのに最後発の僕などが目立って申し訳ないと、ずっと感じてきました。また、立地の好環境に加え、京都は街の大きさも絶妙です。その京都でこういう教育がなされていることの意味は大きい。仮に卒業当初は社会に合わせて「いい子」をしていても、何十年か後、人生の曲がり角にさしかかったとき、立ち止まって自分で考え、物事を動かす一步を踏み出せる。そういう力のある人間が育つ教育環境になっているように思います。

赤松 18歳人口が減っていくなか、大学にもジレンマはありますが、入試倍率、就職率だけを見てはいけません。多様な学びの空間、学生の能力を伸ばす環境を整えるのか、逆に整えすぎても本末転倒でしょう。自発性が生まれやすく、積極的なチャレンジや行動が活性化され、一人ひとりの本来の力が引き出される学びの場づくりに注力していきたいと考えています。

世界仏教文化研究センター設置

世界仏教文化研究センターは、第5次長期計画の研究分野における新たな展開として、龍谷大学が積み重ねてきた仏教研究の実績を基礎に、さらに発展的で国際的な研究拠点を形成することを目的に、2015年4月に設立された。

基礎研究部門、応用研究部門、国際研究部門の3部門からなる仏教を機軸とした総合学術研究を、緊密な連携により推進し、仏教研究の国際的ハブを構築する。また、その研究成果を効果的に学部及び大学院教育へ還元することを目的としている。

2016年5月より、龍谷大学人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）と上智大学グリーンケア研究所が主催で、グリーンケア公開講座を開講しており、2016年後期も全8回にわたり、開講する予定だ。

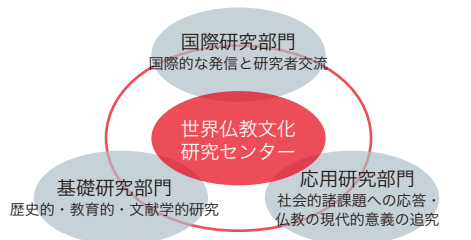
CHSRは、世界仏教文化研究センターの応用研究部門に所属するセンターである。応用研究部門では、仏教思想を基盤として、現代世界の苦悩に向き合い、仏教教学を応用し、社会の困難を和らげることにつながる実践を産みだす研究に従事している。その研究の一環としてグリーンケア公開講座を開催している。

本講座では、講師を招き、「悲しみを生き抜く力」をテーマとして全8回開催。生きることの意味をともに考える。12月6日には、浄土真宗本願寺派第24代門主（前門主）である大谷光真氏を講師として招き「佛教に聞く 悲しみと喜び」

というテーマで講演いただく。詳細は、本学ホームページのイベント情報で。

2017年1月29日にセンターの活動を広く知っていただくことを目的として、「世界の苦悩に向き合う仏教の可能性－共に生きる道はどこに－」というテーマで特別講演会を開催する。

申し込み方法など詳細については、10月下旬に本学ホームページにて発表する予定だ。



- 応用研究部門（常設研究）
人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター（CHSR）
- 基礎、応用、国際研究部門
アジア仏教文化研究センター（BARC）

学生交換協定校 80 大学突破

龍谷大学は、第5次長期計画において、「進取と共生、世界に響きあう龍谷大学」とスローガンを掲げ、教育の国際化の推進に向け、取り組んでいる。

学生交換協定校数については、年次計画を立て協定校拡大に向け、様々な機会を活用して海外の大学と交渉を行っている。2016年7月時点で協定校数は、82校と今年度の目標数をすでに上回っている。今後さらに本学学生の交換留学の機会拡大、そして多様な地域や国からの外国人交換留学生の受入拡大を図るため、鋭意取り組んでいる。

このほか、短期海外派遣プログラムである「シンガポールで学ぶビジネス英語+ビジネス入門」、「海外インターンシップ in Singapore」、「海外英語研修講座（ハワイ）」を新規開発し、

本学学生の多種多様な留学機会を拡大している。また、これら派遣留学生数の増加に伴い、「龍谷大学海外危機管理マニュアル」を作成、海外危機管理セミナーを開催するなど、海外におけるリスクマネジメント体制を強化している。



教育の国際化の推進

- ・第5次長期計画のもと、2015年4月、国際部は発展的にグローバル教育推進センターに改組され、新たに全学的なグローバル・国際教育を推進するとともに、各学部・研究科などの国際化・グローバル化を支援できるよう組織が整備された。
- ・あわせて、学生の能動的な学修を促進・支援するため、深草・瀬田両キャンパスにランゲージスタディエリア、スピーキングブース、グループスタディールームなどの自律型言語学習支援施設を備えたグローバルcommonsを設置した。同commonsでは、留学生語学アドバイザーによる「英会話レッスン」など、様々なプログラムやイベントを展開している。
- ・現在、海外への派遣学生数の拡大と同時に、多文化共生キャンパスの実現に向けて、多様な国や地域から優秀な留学生を受け入れ、日本人など学生と外国人留学生との相互の国際交流を活性化させている。

03 | People, Unlimited

収穫の成果を想像すると
育てるつらさもおもしろい

藤本 翔平さん

農学部2年生

農作物で誰もが知る冠(ブランド)「丹波産」ささやま。その生産地である兵庫県篠山市生まれの藤本翔平さん。実家も兼業農家で農業高校出身。2015年に龍谷大学に農学部ができることを知り、一段階上の「農」を学びたいと農学部第一期生に。入学後サークル「ベジタブルフェスタ」を主宰する。最初3名からはじまり、今は35名ほど。「自由に、つくりたいモノをつくる」がサークルのよさ。トマト、きゅうり、さつまいも、すいか…、何でもチャレンジする。畑はキャンパス近隣農家の一面を使わせてもらっている。夏の炎天下での雑草駆除、取っても取ってもキリがないけれど、手は抜かない。収穫の成果

を想像すると、つらいこともおもしろくて耐えられるという。また畑全体のことを考えると、お借りしている一面だけで除草剤は使えない。

そんな彼らのサークルに、衰退しつつある大津の伝統野菜「近江かぶら」、「坂本菊」の継承と普及活動に協力してくれないかと、大津市と農学部が連携する、『大津の特色を生かした地産地消推進モデルの構築』をテーマにしたプロジェクトから声がかかった。将来的に販売や加工品の開発を見据え、特産品として復活させる取り組みに協力してほしいという。

「近江かぶら」は400年の歴史を持つ白かぶりで、京都の「聖護院かぶら」のルーツともいう。



「坂本菊」を育てる、徳田一樹さん、栗林幹信さん、藤本翔平さん、吉本悠哉さん

「坂本菊」は、しゃきしゃきとした食感の食用菊。両方とも生産量が少なくなった伝統野菜だ。藤本さんらは、自ら畑で育成し、栽培方法や環境が適しているかをテストする。生産者と情報交換しながらの作業が、地域社会とのつながりを深めることに。また、どんな販売方法があるのか、加工品の可能性はあるのかなどを考えることで、戦略的な経営発想の訓練となり、農業知識の幅を広げていくことができる。野菜を育てることはもちろんだが、ブランドを育てることも大事。知ってもらわないと買ってもらえない。いわゆる大津のブランド育成事業だ。

「近江かぶらや坂本菊を丹波産のように、

大津産という冠がつくように育て上げたいですね。また将来は「農都」と宣言する出身地・篠山で役に立てる仕事ができれば、と思っています」と藤本さん。「農」をたのしむ彼らから取材の後いただいた獲れたてのトマトは、とても美味しかった。



藤本 翔平さん

03 | People, Unlimited

子どもの頃からの思いは続く 憧れの職業は消防士

上坂 彩恵さん

経営学部2年生



この日は毎月2回実施している夜回りの日。3~4人一組になって地元地域を歩き防災を呼びかける、砂川消防団の定例活動日。そのなかの紅一点が上坂彩恵さん。子どもの頃から、憧れの職業は消防士。今もその思いは変わらない。上坂さんは小さい頃、「男の子にはぜったい負けたくなかった」という女の子。中学生の頃になると体力的には勝てなくなってきて、とても悔しかったとか。その頃、職業体験で行ったのが消防署。人助けを仕事にする消防士達を間近で見て「これだ」と思った。消防士なら男の子に負けにくいからカッコイイ。その日から将来の夢がピタッと決まった。

高校卒業時で消防士の採用試験を受けたいほどだったが、社会に出る前に大学で視野を広げれば、との両親のアドバイスもあり経営学部に入學。大学生生活もそれなりに楽しんでいたが、やっぱり消防士が気になる。昨年度の学園祭「龍谷祭」で出展していた消防士達のブースから「消防団に入ってみないか」と声をかけられた。消防の仕事に憧れていた上坂さんにとってはチャンス到来、迷わずに入団した。夜回りや放水訓練、消防操法大会への出場など、地域防災の場に自ら進んで参加している。砂川消防団には、上坂さんのほか、本学学生3名も入団していて、消防操法の大会



伏見砂川消防団詰所にて

では、ほかの団は年配の方が多くなか、砂川消防団は学生チームで参加。「ポンプ操法」を特訓してもらい披露した。

地域の防災を担う消防団で活動していると、憧れの消防士とかかわる機会も多い。東日本大震災の支援に行った消防士さんから現場の過酷な話を聞いたりもした。「カッコいいだけじゃないのは当然。でも、話を聞くとますます消防士への憧れが強まる。一方で、人命にかかわる消防士という仕事では、仲間に信頼される人間にならなくては通用しない、ということも教わりました」

女性は体力面で心配されることも多いが、

スポーツジムで体を鍛えたり、ハーフマラソンへの挑戦も考えていたり、男性に負けたくないという彼女は、今も変わらない。負けず嫌いは、意志と正義感の強さの裏返しだ。ボランティアも参加したい、公務員講座の受講もしたい…。憧れに向かって一つずつ実行に移していく彼女ならきっと夢は叶うはずだ。



上坂 彩恵さん

03 | People, Unlimited

子ども達に
「学ぶことの楽しさ」を
伝えたい

中島 裕貴さん

文学部4年生

深草町家キャンパスでは週に一度、文学部哲学科教育学専攻の学生達による、「京町家学習会」が開催されている。本学と公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市の連携事業として、昨年4月からスタートしたこのプロジェクトでは、学習支援を必要としている中高生を対象に、学生ボランティアが勉強のサポートをおこなっている。「子ども達の学力を伸ばすだけではなく、勉強の喜びや奥深さを伝える機会にしたいんです」と話すのは、約25名の学生スタッフをまとめるリーダーの中島裕貴さん。

「学習の習慣を持たない子どもや、学校の授業に苦手意識がある子どもは少なくありま

せん。単に知識を伝えるだけではなく、子ども達に『学びの楽しさ』を体感してもらう内容をめざしています」

子ども達が抱える学習の悩みは十人十色。学生スタッフはミーティングや研修会を重ねて一人ひとりにあった指導方法を模索してきた。個別指導の様子を撮影し、課題と改善策を議論したこともあるという。

交流会などのイベント企画などにも精力的に取り組んでいる。子ども達の保護者などを交えた料理・食事会では、様々な年齢層の地域住民が食生活について考える機会となっている。「『机の上で学ぶだけが勉強じゃないん



京町屋学習会での中島さん

だ』ということ、子ども達に感じてもらえたらうれしいですね。今後は、深草周辺地域の史跡を歩くイベントや、文学部ならではの子ども哲学講座なども企画しています」

京町家学習会では、東日本大震災で被災し、京都で避難生活を送っている子ども達も、市内の別の会場で支援している。地域交流や、進路・生活相談なども学生スタッフが「身近な先輩」として対応し、子ども達の支えとなっている。

京町家学習会を指導する林美輝教授は、「学生スタッフは、子ども達にとって3年後、5年後の良き将来像。家族や教師、友人とは違う立場からのアドバイスはきっと心強いはず。ま

た、教職を志望する学生達にとっては、実践的に学ぶかけがえのない機会でもあります」

「学校や学習塾じゃない場所だからこそできることがある」と話す中島さん。地域の教育を支援する京町家学習会は、2年目を迎え、さらなる発展に向けて動き出している。



京町家学習会を指導する林美輝教授

04 | Special Article

特別企画 同窓対談

学生時代ザイールの山中で 二人はばったり出会う

京都大学 総長
山極 壽一
×

農学部 学部長
末原 達郎



ともに京都大学で学生時代を過ごし、40年来の親交を結ぶ二人。学部や分野の違いを超えて切磋琢磨する仲間として学問と教育を語り合った。

人と未知に憧れた学生時代

末原 人との出会いは大きいですね。スワヒリ語のことわざでは「山と山は出会わないが、人と人は出会う」と言います。

山極 人に憧れ、そして既存のことでなく未知のものに憧れて、「自分にもできるかもしれない」という気持ちを抱かせてくれるのが大学というところ。僕は学生運動の盛んな時代に、湯川秀樹先生と物理に憧れて京大理学部を選びましたが、入学後に霊長類研究の祖と言われる今西錦司さんやその弟子で後継者の伊谷純一郎さん、河合雅雄さんと出会って、人生が変わった。伊谷さんの『ゴリラとピグミーの森』を読んだときは感動しました。新たな学問への情熱が満ちあふれていて、こんなふうに分もやっていきたいと感化されました。

末原 僕は教養部の米山俊直先生(文化人類学)に出会って研究の可能性に目覚めました。山極さんとも一緒だった近衛 Rond(京都大学人類学研究会)も、そのつながりで参加したんです。大学も学問領域も超えた私塾のような学びの場で、そうそうたる顔ぶれが来てましたね。

山極 そう、国内外からすごい人達が集まって。外国人研究者のゲストも多く、世界の第一人者達が来ていた。「直接世界とつながる」のは京都の魅力、京都の流儀なのでしょう。そしてそこに若い人も関わることができる。いい経験でした。

末原 ただ、僕はずっと京都だったから、外に出

たかった。自分と異質な都市的でない世界に憧れて、日本の農村からアフリカの研究へ。信念を貫く今西錦司さんのような生き方への憧れがありました。

山極 僕は「自然」だった。我々はまだまだ「自然」という見方]ができていない。人間の内に潜む自然性をもう一度把握し直さないといけない。日本の自然とそのなかに生きるサルを通過して自然を理解しようと思ひ、サルの棲息北限の北下半島から屋久島まで、日本列島をくまなく歩きました。

末原 僕は日本の農村に行つて、焼畑農業に出会いました。水田・稲作は基本的に人間が完全にコントロールする。それが灌漑農業の特徴です。しかし焼畑はコントロールしきれない。うまくローテーションさせて、人間が自然に参加していくのです。熊をとるマタギに可愛がられて、山のことも教えてもらいながら農業のことも知りました。「講」という自主勉強会のような組織があることも。血縁関係や一族だけでなく、共同体の文化的な「横」のつながりが大事だとわかってきたのです。

山極 農業という生業を通じた社会のあり方と自然に、強い関心があったということですね。熱帯なども基本はそっちですね。

末原 その後、大学院の博士課程で赤道アフリカの総合人類学的研究班に携わり、ザイル共和国(現在のコンゴ民主共和国)に派遣された。そこでゴリラ調査に来ていた山極さんとぼったり出会ったんです。「山の上からバイクでやってくる日本人がいる」って現地でも誰もが言うんだけど、そんなまさかと思うじゃない。びっくりしたなあ。

山極 ははは。僕は広域調査をしていたのでね。



山極 壽一 やまぎわ じゅいち

京都大学総長。理学博士。1952年東京都生まれ。京都大学大学院理学研究科博士後期課程研究指導認定退学。京都大学霊長類研究所助手、京都大学大学院理学研究科助教授を経て、2002年より同教授。2014年10月現職就任。

「初登頂の精神」を持って

山極 フィールドワークの状況も、当時と今では大きく変わりました。昔は環境が全く整っていませんでした。厳しさがあつて、それによって鍛えられ、文化を肌で感じ、得難い体験に成長させてもらった。だが今の学生は違つて。整つた体制、サポートしてくれる人、安全な環境を求めます。

末原 たしかに大学側としても安全は大事ですからね。しかし、学問の面白さはやはりパイオニアワークにある。制度化された学問体系の枠を外したいですね。新しい分野を切り拓き、研究のフロンティアをつくってほしい。

山極 「初登頂の精神」だね。京都大学はフィールドワークの大学として名を馳せているけれども、だんだんそういう荒っぽいフィールドワークができなくなつてきた。そういう意味でも、龍谷大学に農学部をつくつたのは相当に挑戦的ですね。僕はね、いま、日本人の生き方について、戦後三度目の新しい波が来ている気がするんですよ。第一波はアメリカ文化を夢見た70~80年代の高度経済成長期。次が日本の伝統や古い調度品が見直された80~90年代。そして21世紀になつて、今度は暮らしを総合的に再検討する波が来ている。和食を文化遺産にしたり、農業を見直したりというのもその一環だと捉えています。



末原 達郎 すえはら たつろう

龍谷大学農学部学部長。農学博士。1951年京都市生まれ。京都大学大学院農学研究科博士課程修了。京都大学大学院農学研究科教授を経て、2014年より龍谷大学経済学部教授。2015年4月現職就任。

末原 実はこの農学部への反響はとともよく、たしかに波を感じます。少し広く言うと文明の転換点にさしかかっている。それはやはり現在の生活や社会への疑問、危機感から来ているのでしょう。

山極 この機械文明のなかで、生活に密着した自然との営みが人間の精神的な支えをもう一度回復してくれることへの期待があるわけです。AIなど技術の飛躍的進化の反動として、振り子が両極端に大きく揺れているのですね。日本は経済大国と言われながら、食糧自給率が40%に満たない。しかも人口は減っていく。危機的状況は深刻です。そのときに、末原さんが言った

焼畑農業や「講」のような、共同体的な社会のあり方がもう一度復活してこないといけないのですが、機械化、効率化、経済化が行きすぎると、そのときにやるべき作業が残っていない。せめて身体を使って通じ合っていないと、人間がつくりあげてきた社会性は消失してしまうと思う。

末原 今は難しい時代ですが、逆に変化のきざしもある。我々の時代も別の意味で危機的な状況があり、そこで既存の枠組みを突破する新しいチャレンジができた。今もそういう時代で、今後ますます開拓力が必要とされていくでしょう。若い人には、周囲に惑わされず、思い切ってチャレンジをしてほしいですね。

05 | Education, Unlimited

現地学生と徹底的に議論 ハードな留学が学生を変える

国際学部
グローバルスタディーズ学科
松村 省一 教授

世界最高水準の学びへ

「日本で一番勉強する学科」を標榜するグローバルスタディーズ学科(以下、GS学科)では、提携する英語圏8大学などへの留学が必修となっている。2年次に予定する留学に備えて、1年次でReading、Writing、Oral Communicationなどを集中的に鍛え、基礎的な英語能力を身につけるとともに、プレゼンテーションやディベートなどの能力を身につけるトレーニングをおこなっている。

提携留学先は、過去に数多くのノーベル賞受賞者を輩出したアメリカの名門、カリフォルニア大学バークレー校や、オーストラリア名門8大学の一つに数えられるモナシュ大学をはじめ、世界最高水準の大学が名を連ねる。GS学科の留学で特筆すべきは、留学先提携校での正規専門科目の履修を推奨している点にある。海外大学の付属機関で英語を学ぶ「語学留学」とは異なり、現地の一般学生と

机を並べて同じ授業を受講するのだ。留学期間は1セメスター(現地での授業は15週間程度。留学校により異なる)以上あり、単位取得は容易ではない。

カリフォルニア大学バークレー校のサマーセッションプログラムに参加中の2年生を訪ねた松村省一教授は、「学生達は質・量ともにこれまで体験したことのない学びに苦勞しながらも未知の体験を楽しんでいました」と話す。「通常、1学期でおこなう授業を1カ月に凝縮しておこないますので、息つく暇もない様子でした。毎日のように膨大な資料を読み込み、翌日の発表やディスカッションに備えるため、学生達は『時間がいくらあっても足りません』と口を揃えていました。とは言え、仲の良い友人ができたり、イベントへと足を運んだりと生活も満喫しているようです。勉強だけではなく、幅広い視野を身につけて帰ってくることも留学の大きな目標ですから、様々な体験から学んできてほしいですね」



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 誰か人

News &
Topics

カリフォルニア大学バークレー校



周囲を巻き込み、積極的に学ぶ

「留学で最も苦勞するのは、ディスカッションのスピード感」と話す松村教授。

海外の大学では教員と学生が双方向に意見を交わす授業が一般的なため、議論に割って入る積極性が必要だ。英語を母語とする現地学生でも、飛び交う議論のなかで理路整然と話すことは難しい。そのため、GS学科では1年次から英語でのディスカッションやプレゼンテーションなどの授業を少人数でおこない、自身の意見を論理的に伝えるトレーニングを積んでいる。

「留学に出発する前には現地の授業を想

定した模擬授業をおこないました。学生達は『こんなにハードだなんて大げさだろう』と感じてみたいのですが、現地ではそれを遙かに上回る厳しい授業が待っていて、留学当初はかなり戸惑ったようです。最初の1週間は『何がわからないのか、わからないんです』と弱気なメールが届いていましたね。ただ、留学1カ月を過ぎる頃には、環境に慣れ始めて前向きな連絡が多くなりこちらもひと安心でした」

カリフォルニア大学バークレー校のサマーセッションプログラムへの留学期間は約4カ月。授業に追われる日々のなか、自分だけの力で学び、課題をクリアしていくことは容易ではない。GS学科の学生達は留学先で出会う人々



留学先の授業で発表している様子



松村 省・まつむら しょういち
 龍谷大学国際学部教授。グローバルスタディーズ学科主任。ブリティッシュコミュニケーション学大学院卒（言語教育学博士）。カリフォルニア大学バークレー校客員研究員。専門は第二言語習得研究。

との関係性をうまく学びの糧としている。「留学先の教授陣からは、理解できるまで研究室に通って質問するGS学科生の前向きさを、とても評価していただいています。これは日頃のGS学科の雰囲気が活きたのでしょう。また、ルームメイトと仲良くなって、家庭教師のようにつきっきりで勉強を教えてもらったという学生もいます。GS学科の留学では、ただテストに合格する、単位を取得するだけではなく、困難な状況に直面したときに、解決策を模索する力を身につけてほしいと考えています。英語を武器に国際社会を生き抜く術こそが、将来を切り拓く大きな原動力になりますから」

05 | Education, Unlimited

論理的に思考できる 自立した市民の育成を

法学部

渡辺 博明 教授

4年間切れ目のない少人数教育をめざして

法学部は2016年度の入学生から新カリキュラムを導入する。全国的な政策系学部の増大や少子化のなかで、法学部が挑もうとしていることは何か。教務主任の渡辺博明教授に聞いた。

「本学でも2011年に政策学部が開設され、法学部内では政治学科が学生募集をやめ、法律学科のみの体制となりました。少子化によって学生獲得競争も激化していくなか、新たな龍大像を打ち出すための動きと並行して、法学部でも2013年からグランドデザインの検討が始まり、いくつかのワーキンググループを作ってその将来像を模索してきました。その成果を形にしたのがこの新カリキュラムです」

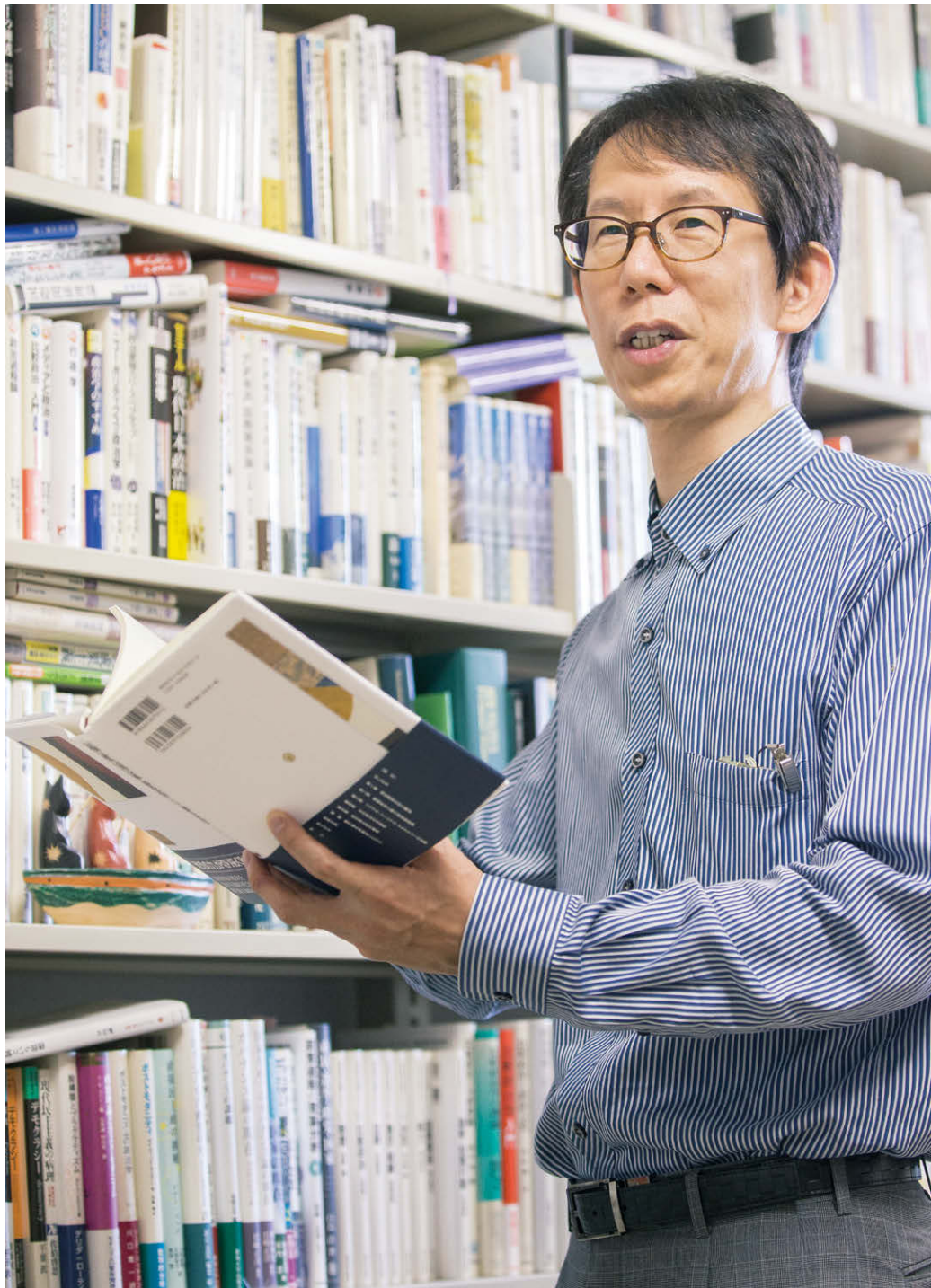
抽出された課題は、学力の底上げ、上位層のスキルのさらなる引き上げ、希望進路の多様化であった。今回の新カリキュラムはそれらに応えるものとなっている。

一つ目のポイントは2年生前期の演習科目の

配置。これまでは、1年生の基礎演習I・IIと、2年生後期からの演習I(ゼミ)の間が空いていたが、その切れ目となる2年生前期に「法政ブリッジセミナー」という科目を新設する。これによって4年間切れ目なく演習による教育が実施されるが、これは関西私学8大学の法学部では初めてとなる、画期的な取り組みである。

演習は15～20名の少人数クラスなので、学部生全員が4年間を通して、教員と近い距離できめ細やかな学びのフォローを受けられることとなる。「法政ブリッジセミナー」は、1年生の基礎演習で身につけた基本スキルを実践的に確認しながらさらに向上させ、後期からの専門演習につなげようとするものである。

二つ目のポイントは、アクティブ・ラーニング科目の新設。法学部といえば、これまでは座学中心で、法律書を読んで判例と向き合うイメージであったが、近年の大学教育が実践を重視するようになるなかで、法学・政治学にもフィールドワークを取り入れようとしている。



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 読者人

News &
Topics



「法政アクティブリサーチ」と名付けられたこの科目では、例えば景観訴訟などの社会問題を取り上げ、現場に向いて学び考えることにより、交渉、取材、人脈形成などを含めた実践的能力を鍛えようとする。一つの問題に関わる多様な機関、手続きなど複雑な社会構造を体感するなかで自身のリーガルマインドを力強く育んでいく。

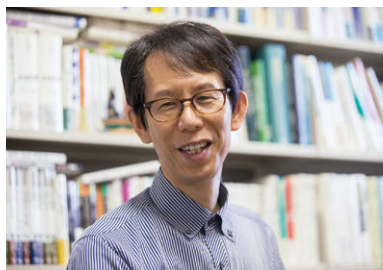
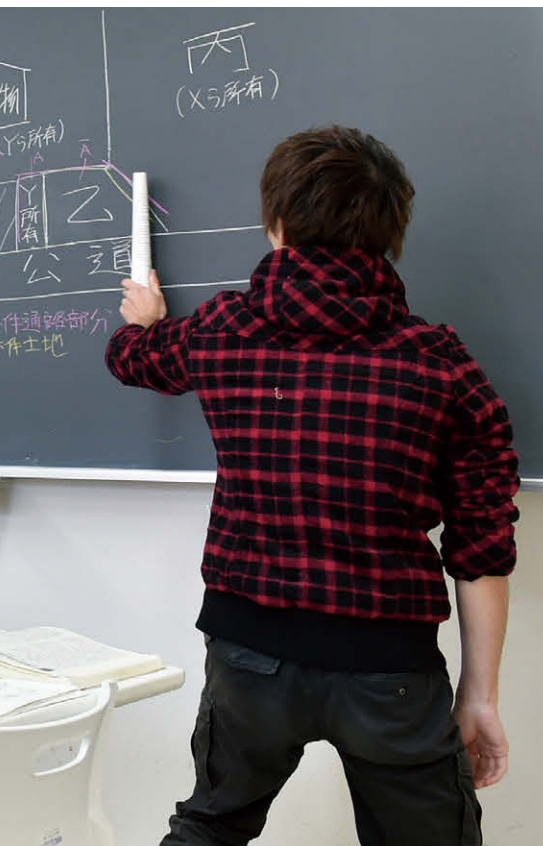
三つ目のポイントは、課外講座である法職課程の改編である。2016年度の入学者は当初、半数近くが公務員志望であった。今後もそのような傾向が続くとみて、これまで法曹志望の学生を主な対象としていた法職課程の講座について、公務員志望の学生への支援を強化し、

そのニーズにも応えていく。

未来に生きるリーガルマインドを育む

「例えば宗教を通じて自身の心の状態を見つめ直したり、他者と考え方を共有して、争いが起こらないようにしていくことも大事です。しかし、それでも利害や意見がぶつかり合うのが社会の現実。その時どうするか。そこで解決策を見つけ出せる人材を育むのが、法学部での学びです」と渡辺教授。教授自身は政治学が専門で、特に北欧の福祉国家や政党政治を研究している。

「北欧のやり方をそのまま持ち込むのは無



理だとしても、歴史や政治的条件の違いを冷静に見つめつつ、その原理を理解することで、日本の将来を考える際のヒントを引き出せると考えています」

渡辺教授によれば、法学や政治学の教育を通じて培っていきたいのは、社会科学的な思考方法や態度であるという。社会で発生する様々な課題に対して、権力に安易に従ったり、感情に流されたりせず、論理的に考え、言葉で説得し合って解決しようとする「自立した市民」を社会に送り出したい。バランスのとれた法感覚に基づき、自分が今いる社会を見つめ直しながら、責任感をともなう意見を持てるようになってほしい。指導教員達の思いはそこにある。

渡辺博明・わたなへひろあき
1967年岐阜県生まれ。名古屋大学大学院法学研究科博士課程単位取得。2013年4月より本学法学部教授。専門は政治学。主な研究テーマは、北欧福祉国家の発展や再編の動向を政党政治の観点から分析すること。最近では、共同研究プロジェクトの代表として、若者への政治教育のあり方に関する研究にも取り組んでいる。
2016年4月より法学部教務主任。

06 | World,
Unlimited

母国 カーヴォベルデの
経済発展の可能性を探る

レイサ・モレノさん
経済学研究科博士後期課程3年



アフリカ島国の省庁勤務からの国費留学生

経済学研究科では、これまで国外の様々な地域から留学生の受け入れを、継続的に実施してきた。そのなかで2014年にカーヴォベルデ(アフリカ)より国費留学生として博士後期課程に入学してきたのがレイサ・モレノさん、28歳。

プライベートでは日本人学生とシェアして住んでいる一軒家から大学に通い、最新設備が整った深草キャンパスの図書館でパソコンや資料を開く。研究室のドアをノックし英語で研究の進捗報告、マスター向けでも興味のある講義には出席。学外の交流会に出かけては様々な留学生と知り合い、ツテをたどって企業にアポイントメントをとり、研究関連のインタビュー。学会の事務局スタッフに連絡をとり情報収集し、海外での国際学会で論文のプレゼンテーション。モレノさんの日々は充実している。

彼女は高校卒業後、フランスのニール第一大学に留学し経営学を学んだ。修士課程を出た後、カーヴォベルデの財政企画庁に勤務していたが、日本への国費留学のチャンスを手にし、本学の西垣泰幸教授のもとで学ぶことを志願。京都にやってきた。

研究テーマは「サービスセクターにおけるイノベーション:新製品開発と経済成長」。それは発展途上の母国カーヴォベルデの事情に由来している。

カーヴォベルデはアフリカ西海岸のさらに西に浮かぶ、人口50万人ほどの小さな島国。大航海時代以降、アメリカ大陸への中継貿易港だったのがはじまり。長くポルトガル領であったが、つい40年ほど前に独立した。アフリカ大陸の他の国々に比べると天然鉱物資源なども少なく、他国からの直接投資が望めない。このように成長資金がない国が今後経済発展を遂げていくにはどうすればよいのか?彼女は財政企画庁での勤務時代に直面した課題に対して、第3次産業の技術開発をテーマとした研究によって挑むことにした。

Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 難関人

News &
Topics



日本企業の サービスの多様化を事例に研究

彼女は経済学でいう、内生的経済成長理論のなかの「プロダクトバラエティ(商品の多様性)」に着目。R&D(研究開発)によってサービス産業の製品が多様化すると、財の種類が増え経済成長が起こる、というモデルをつくり、具体的なデータを入れては因果関係を調査している。1本目のモデルは一昨年、東京の国際会議で発表し、2本目はこの5月にシンガポールで発表した。

また経営学的にも、仮説を立て実際の企業にインタビューをおこない実証を進めていく。

今年は彼女自身のアイデアで、主にサービス産業において、商品に新たな付加価値をのせて成功している企業を選んでいる。例えば、バブル期に途絶えてしまった牛乳配達。高齢化社会の今、新鮮な乳製品の個別宅配がまたヒットしている。日本でのそういったケースにも注目。インタビューのための人脈づくりやアポイントメントも、彼女自身が主体となっておこなっている。

これまでに発表した論文は4本で、この9月にイタリアでの学会で新たに1本発表、さらに補足的にもう1本書いており、合計6本。これを11月中にまとめて博士論文に仕上げる予定。「母国の経済の持続可能なあり方を見い



西垣泰幸教授の指導の様子

出したい。私が国際学会を舞台に発表することが国への刺激・提案になればと思う。いずれはコンサルタントになりたい」というモレノさん。

指導を担当する西垣泰幸教授はモレノさんについて、「国に貢献したいという熱意と、学問的に何かを追究したいという強い探究心の持ち主。人脈づくりにも長けていて、それがアクティブな研究活動につながっている」と語る。

取材時も「全く緊張してない」と話していたモレノさん。プレゼンテーションも得意なほう。「日本の方は恥ずかしがってすぐ顔を伏せますよね」とおもしろそうに瞳を動かす。好奇心にまかせてあちこち出かけるのも好きで、京都

暮らしを楽しんでいるようだ。

経済学研究科の修士課程においては、2014年度から独立行政法人国際協力機構（JICA）が主催する「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）プログラム」に参加し、アフリカからの学生を積極的に受け入れている。その要件となる英語による講義、研究指導などの一層の充実を図っている。

モレノさんのような熱意ある留学生達の姿は、研究科全体への刺激にもなっている。

07 | Event Ryukoku Museum

800年間本願寺が受け継いできた 法灯と至宝を今秋と来春、一堂に公開

龍谷ミュージアム 2016年度秋季特別展
第25代専如門主 伝灯奉告法要記念

『浄土真宗と本願寺の名宝I —受け継がれる美とこころ—』

2016年9月24日(土)～11月27日(日)

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、浄土真宗本願寺派、
本山 本願寺、毎日新聞社、京都新聞



重文
「慕帰絵」巻第七
西本願寺 蔵

教科書などで見覚えのある平安時代選ばれた和歌の名手36人(三十六歌仙)。その歌集を集大成した「三十六人家集」の現存最古の遺品は本願寺所蔵で国宝である。歌はも

ちろん、書と料紙のデザインも平安時代後期の超一流の粋を集め、目を見張る美しさだ。室町時代に後奈良天皇から本願寺第10世宗主の証如に下賜され受け継いできた作品で、今回の伝灯奉告法要記念として披露される宝物の一つだ。今回の展覧会では、I期(秋)、II期(春)あわせて14帖が常時2帖ずつ、週替わりで開くページを変えて展示する。

「金銀、雲母^{きら}刷りなどの彩り豊かな料紙の上に流麗なかな文字が乗り、貴族文化が詰め込まれた傑作で、まさに『デザインと書の融合』。全てのページのデザインが異なり、どこを開くか苦心しました」(石川知彦副館長)。



国宝「三十六人家集」37帖のうち『小町集』部分 江戸時代 西本願寺蔵

伝灯奉告法要とは、親鸞聖人の教えの灯が新たな本願寺門主に伝えられたことを仏前に告げる法要で、この2016年秋から翌年春にかけて合計80日間勤められる。これにあわせてミュージアムで開催されるのが、本特別展。紹介される宝物の数は100点以上にものぼる。国宝「三十六人家集」をはじめ、西本願寺内書院の襖絵や、本願寺と縁の深い勝興寺(富山)所蔵の桃山時代の屏風絵など、日本各地の浄土真宗寺院の法宝物が一堂に会する。

I期(秋)では、宗祖・親鸞聖人から、安土桃山時代に信長と戦った第11代顕如宗主までに焦点をあて、歴代宗主の肖像画とその関連資

料が並ぶ。特筆されるのは、親鸞聖人影像かかみのこえい(国宝「鏡御影」専阿弥陀仏筆、覚如賛)が、11月18日(金)から25日(金)までの8日間限定で特別公開されることだ。未だ多くの謎が残るこの肖像を間近に拝観できる貴重な機会である。



龍谷ミュージアム
石川 知彦 副館長

07 | Ryukoku Event

社会学部現代福祉学科開設記念講演会&シンポジウム
「つながる、変える これからの『福祉』のあり方」を開催

龍谷大学社会学部は、6月4日、龍谷大学響都ホール校友会館にて、社会学部現代福祉学科開設記念講演会&シンポジウム「つながる、変える これからの『福祉』のあり方」を開催した。

同学部では、2016年4月より「地域福祉学科」と「臨床福祉学科」を統合し、新たに「現代福祉学科」を開設した。このイベントは、現代福祉学科の開設を記念して開催され、記念講演会とシンポジウムを通じて、これからの福祉のあり方について、参加者とともに考えた。

記念講演では、子どもの貧困対策センター公益財団法人あすのば代表理事の小河光治氏をお招きし、「貧困の連鎖を断ち切れ～子どもに寄り添い、仕組みをつくる～」をテーマにご

講演をいただいた。引き続きおこなわれたシンポジウムでは、「現代福祉学科の挑戦～いかに、今の危機をのりこえるか～」をテーマにシンポジストがそれぞれの立場から、話題提供をおこなった。



日時:2016年6月4日(土)

会場:龍谷大学響都ホール校友会館(京都駅八条口 アバンティ9階)

<記念講演会>

「貧困の連鎖を断ち切れ～子どもに寄り添い、仕組みをつくる～」

小河 光治 氏 (子どもの貧困対策センター 公益財団法人 あすのば 代表理事)

<シンポジウム>

「現代福祉学科の挑戦～いかに、今の危機をのりこえるか～」

シンポジスト 「福祉専門職を支える～精神保健福祉士のネットワークづくり～」

荒田 寛(社会学部教授)

「学生の力を地域社会へ～大津市地域福祉計画・活動計画への参画～」

筒井 のり子(社会学部教授)

「語られなかった歴史を次世代へ～ハンセン病問題と向き合う～」

砂脇 恵(社会学部講師)

コーディネーター 長上 深雪(社会学部教授)

深草キャンパスに期日前投票所を設置 京都府内の大学では初めて

7月10日におこなわれた参議院議員選挙の期日前投票所が、京都府内の大学では初めて、龍谷大学深草キャンパス内に設置された。

これまで龍谷大学では、政策学部が中心となり、若者の政治参加と投票率向上に向けて、学生の意識調査や近隣小学校での模擬選挙の実施、京都市議会議員を招いてのワークショップなど様々な取り組みをおこなってきた。こうしたことが契機となり、京都市選挙管理委員会の検討の結果、今回の期日前投票所の設置が実現した。また、この参院選から選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられたことから、大学生など若年有権者の政治や選挙への関心を高めることをめざした。

設置期間は7月7～8日。龍谷大学の学生だ

けでなく、伏見区の選挙人名簿登録者が投票できた。龍谷大学職員が投票所の管理者と立会人を務め、受付や投票用紙交付係などを学生と選管職員が担当した。



大宮図書館 2016年度秋季特別展観 「大宮図書館今昔物語（予定）」

大宮図書館の築80周年、改修竣工10周年、初代龍谷蔵設置50周年を記念し、龍谷蔵の貴重資料を主とした展覧会を開催する。貴重な資料を多数用意し、無料公開する。



げんじえ
源氏畫三卷 江戸時代後期写

日時:2016年10月13日(木)～10月21日(金) 10:00～17:00(16:30受付終了)

会場:龍谷大学大宮キャンパス本館 1階 展観室

※駐車場はありません。公共の交通機関利用でご来場ください。

龍谷人

素材をシンプルに活かす 料理は畑から始まっている

イタリアンレストラン cenci (チェンチ)
オーナーシェフ

坂本 健さん

小さい頃から料理が好きで、よくキッチンに立っていた。大学時代のアルバイトもレストランの厨房で、社員にと誘われたこともある。だが、坂本健さんが料理の道に進もうと決心したのは、卒業も間近、大学4年の冬だった。その後、イル・パッパラルドで修業を積み、師と仰ぐ笹島シェフについてイル・ギオットーネの立ち上げに参画。京都イタリアンの名店と名高い同店で、9年にわたり料理長をつとめた。

「素材をシンプルに活かすのがイタリア料理の真髄だというのが僕の考えです。本場イタリアでは当たり前のように地産食材を使い、州ごとにスタイルが確立されています。沿岸では新鮮な魚介を使うけれども、内陸部では海産物は使わない。では『もしイタリアにKYOTOという州があったら』と考えたのが、僕の師匠である笹島シェフです。その料理哲学に感化され、国産、地産の食材をいかに活かすかを突き詰めるようになりました」

坂本さんが思い描く理想の料理は、「やれ

ばやるほどシンプルに」なり、国やジャンルの枠から自由になっていった。そして39歳での独立。「わざわざ足を運んでいただけるレストランでいたい」と、あえて繁華街や観光地を少し外れる場所を選び、設計士や大工さんと意見を交わしながら設計のアイデアを練る日々。どうしても多額の資金と総勢10人の大所帯が要る。だが不安はなかった。「人より遅かった分、とことんこだわった店づくりをしよう」と腹をくくったら、後は走るだけ。

「料理は畑から始まっていると感じます。『流通しやすいものより安全な食べ物を』という価値観が、当たり前になってほしい。そのためにも、一次産業の生産者と会う時間を増やしていきたい。龍谷大学にできた農学部にも注目しています。何か自分に役立てることがあれば、連携していきたいですね」

京都生まれ京都市育ちの坂本さん。日本料理やイタリア料理といった枠を超えた新しいKYOTO流は、どんな食の世界を切り拓いていくのだろうか。



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 誰かへ

News &
Topics

さかもと けん 1975年京都市生まれ。1999年社会学部卒。龍谷大学在学中は夏休みごとに欧州を旅行し、様々な国の食文化に出合った。2014年12月、平安神宮や琵琶湖疏水に近い岡崎にレストラン「cenci」を開業。メニューはコースのみ。連日ほぼ予約で満席の盛況が続いている。

08 | People, Unlimited

龍谷人

「知識で救える命がある」 ザンビアで保健教育に尽力

アフリカで国際支援に従事
村上 優子さん

「無性にアフリカに惹かれて。魅力? やっぱり人かな」と微笑む村上優子さん。大学院を卒業し、最初に就いたのはアフリカ東部のエチオピアでのODAプロジェクト。外務省の派遣職員として、草の根無償資金協力の仕事に従事した。その後、同じ業務でインドにも行ったが、やはり心はアフリカへ。特定非営利活動法人AMDA社会開発機構に就職。2012年から14年にかけての2年間、今度は南部のザンビアの地方都市ソルウェジに駐在し、プライマリ・ヘルスケア(小児保健)プロジェクトに従事した。ザンビアは、内政は安定しており、豊かな鉱山資源が経済成長を牽引しているが、急速な発展と都

市化が進み、医療従事者が全く足りていない。

このプロジェクトは、現地の保健省職員及び医療従事者の運営能力を高めるために、JICAの技術協力プロジェクトとして展開。地域の保健ボランティア育成にとどまらず、研修を受けた現地職員が中心となり、ボランティアをうまく運営・組織化することで、保健サービスを向上させ、5歳未満の乳幼児死亡率を下げるのが大きな目的だ。行政(保健センターの医療従事者や保健局職員)がそれぞれの管轄すべき人達の士気を高め、自分達で保健サービスを提供していくことが望まれる。

「黒子に徹して気づきを促す難しさがありま



した。でも、私達がいなくなった後、彼らだけでやっていけるようになってほしかったので」。手洗い・うがいがいとった小さな習慣さえ、彼らにとって「当たり前」ではない。丁寧な人材育成プログラムの甲斐あって、最初は受け身だった彼らに自発性と問題意識が生まれ、みずから提案をするまでに成長する。確かな手応えに「やってよかった」と痛感。村上さんにとっても彼らにとっても大きな一歩となった。

2年前、ザンビア駐在中に出会ったオランダ系南アフリカ人の男性と国際結婚。7月でAMDA社会開発機構を退職し、この秋、2歳になる愛娘とともに夫の住む南アフリカに移住する。

むらかみ ゆうこ 京都府生まれ。2005年3月国際文化学部卒。龍谷大学在学中にスウェーデンベクショー大学に交換留学。卒業後は国連への就職も視野にイギリスの大学院へ進学。修了後、外務省の派遣職員を経て、2012年、岡山に本拠を置く特定非営利活動法人AMDA社会開発機構に就職。2016年7月同機構を退職。



村上 優子さん

龍谷人

キャラクターグッズは 「手のひらにのるアトラクション」

株式会社ユー・エス・ジェイ
マーチャンダイズ部 次長

上嶋 真二さん

「ハリー・ポッター」など人気映画の世界観が体感できるエリア、超刺激的なアトラクション、ホスピタリティあふれるスタッフ達の演出。それに魅了された若者や家族連れなどが連日足を運ぶ「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)」は、開業15周年を迎えた。さらに来年3月には「ミニオンズ」の新エリアがオープンするなど、常に進化を続け、観客を飽きさせない。そのUSJを訪れたお客様が購入するユニークなキャラクターグッズは、帰宅してからも夢の世界の余韻が味わえる。それをプロデュースするのが、マーチャンダイズ部の上嶋真二さんだ。

15年前、旅行で訪れたアメリカオーランドのUniversal Studiosが上嶋さんには、とても印象的だった。その直後に大阪でUSJがオープンするのを知り、すぐにスタッフ募集に応募。結婚直後の冒険であったが無事採用に。以来マーチャンダイズ部で商品企画に携り、現在は経営戦略を担当する立場だ。

「もともと音楽や映画などのエンタメが好き

で、大学時代は軽音楽サークルに所属、社会人になってからもバンドを続け、人を楽しませることはずっとやってきた。まさかエンターテインメントの業界で仕事ができるとは。おかげさまで今でも刺激的な毎日を過ごしています」

世のトレンドには常にアンテナを張り、家族も巻き込んで情報収集。コンテンツの世界観を理解するために、漫画も読み込む。オフィスを出て扉を開けばお客様は目の前。アイデアに行き詰まれば現場をのぞく。ふつうの社会ならまさかと思うものがUSJ内ではヒットしていく。夢の世界ならでのこと、そこが面白い。

「キャラクターグッズは手のひらにのるアトラクション。お客様が各コンテンツの世界観をより深めて、満足度を高めていただけることをめざしています。売り上げはその評価、そこを伸ばすことでUSJがまた新たなエリア建設に投資していけると思うと、やりがいになります」

最高のショッピング体験を提供する！を合言葉に、今日も上嶋さんはバックヤードから、お客様が笑顔になれるよう仕掛けている。



Feature
Article

People
Unlimited

Education
Unlimited

World
Unlimited

People
Unlimited 誰かへ

News &
Topics

うえしましんじ 1965年大阪府高石市生まれ。1988年経営学部卒。通販会社2年、子ども服メーカーに11年勤務し、新規出店や商品企画の業務を経験したのち2001年6月USJに入社。



端艇部、男女とも好成績で 今シーズン最高のスタートを切る

端艇部は、2016年5月、第38回全日本軽量級選手権大会で、男子舵手なしクォドルブルが初優勝し、9月のアジア大会への出場が決定。他4種目でも入賞を果たした。また、朝日レガッタでは、26都道府県から453クルー、約1300名の参加のなか、女子舵手付きクォドルブルが見事に優勝、男子舵手付きフォアが準優勝。女子シングルスカルに大西花歩さん(社会学部2年)が3位に入賞した。今シーズン始まりから好成績を残し、最高のスタートを切った。



Photos by : c IJF Media by Zahonyi

リオデジャネイロオリンピック テスト大会で米澤選手が優勝!

2016年3月、ブラジル・リオデジャネイロにてリオデジャネイロオリンピックテストイベント大会がおこなわれ、柔道競技で本学から米澤夏帆さん(文学部2年)が、女子63kg級の日本代表に選ばれて出場。4試合を勝ち抜き見事優勝に輝いた。今回のリオオリンピック出場は果たせなかったが、7月には、世界ランキングのポイントが決まる重要な大会、グランプリ・ウランバトルで銅メダルに輝いた。2020年東京を見据えて米澤選手のこれからの活躍に期待がかかる。



女子バレーボール部、春季リーグ最終戦の接戦を制し優勝!!

女子バレーボール部は、2016年5月、関西大学バレーボール連盟春季リーグ最終戦で、千里金蘭大学とフルセットにもつれる大接戦の末、勝利し、優勝旗を奪取。半年間監督が不在だったチームに、今季からバレーボールトップリーグのVリーグでプレーし、全日本代表では主将としての経験もある江藤直美さんが監督に就任。その江藤監督の指導力のもと、順調な滑り出しを見せた女子バレーボール部だ。



吹奏楽部関西大会金賞・全日本出場決定！2冠達成に続け！

2016年8月21日、第66回関西吹奏楽コンクールが開催され、吹奏楽部が通算20回目となる全日本吹奏楽コンクールへの関西代表出場権を獲得した。

今年度は、関西地区からの全国コンクールへの出場枠が2枠から1枠に減り、関西地区代表権の取得は熾烈なものとなったが、並み居る関西強豪大学を抑え、見事全国へ出場を果たした。2015年度は全日本吹奏楽コンクール、全日本アンサンブルコンテストともに金賞の【2冠達成】の快挙を実現。「音楽」「感謝」を胸に、ますます高みをめざす。



学生会宗教局が 第40回正力松太郎賞を受賞

2016年5月、龍谷大学学生会宗教局が、「第40回正力松太郎賞」で「児童教化功労賞」を受賞した。大学の建学の精神を普及・浸透させることを目的に個性ある6サークルが長年実践的に取り組んできたことを評価されての受賞。正力松太郎賞は、青少年の育成に常日頃から尽力し、社会の情操教育振興に努力している個人・団体を顕彰する制度。同会の結成に尽力した正力松太郎にちなんで1977年に開始された。



「インターンシップ参加学生数」が 全国6位にランクイン

本学では、インターンシップ支援オフィスを設置し、インターンシップに関する総合的なワンストップサービスをおこなっている。なかでも協定型インターンシッププログラムは、学生と企業・団体の双方から高い評価を得ている。ほかに長期プロジェクト型インターンシップ、アカデミックインターンシップ、海外インターンシップなどがあり、2013年度から短期体験型インターンシップもスタートさせた。充実したインターンシッププログラムに参加する学生が800名を超え、全国で6位にランクインしている。

朝日新聞出版発行「大学ランキング2017年版」より



「龍谷大学グローバルパスポート 制度」開始

2016年度入学生から「グローバルパスポート」を配布している。グローバルコモンズを中心に展開されるプログラムやイベント、自律的学習支援施設などを利用することにスタンプをもらい、ポイントを貯める。ポイントを貯めた学生には、TOEIC®などの受験料の一部補助を受けられるなど、語学検定試験の受験料補助の特典がある(年間3回を上限)。また、1年間でポイントを一番多く貯めた学生や1冊全てのポイントを貯めた学生には、表彰状が授与される。



農学部の教員と学生が、マレーシア食材を使ったレシピを考案

2015年7月、農学部は「マレーシアフードフェア2016」に「龍谷大学×マレーシア」と題し参加。農学部の山崎英恵准教授をはじめとする教員と学生のプロジェクトチームが、マレーシア食材を使った日本人向けのレシピを考案し提供した。農学部生が栽培、収穫した農作物（今回は茄子）と、マレーシアのソースをコラボレーションさせた料理をつくり、入場者にその試食をしてもらった。あわせて、実習農場で収穫した茄子の販売もおこなわれた。



農学部に「くまモン」が出前講座

2016年6月、農学部は熊本県営業部長の「くまモン」を招いて特別講座を開講した。出前講座にくまモンが出演するのは、熊本地震発生後では初めてのこと。4月に発生した熊本地震による被害状況をはじめ、熊本県の観光や農林水産業でのブランド戦略について「くまモンとくまもの赤」というテーマで講演がおこなわれた。熊本県のカラーブランディング戦略やくまモンを活用した地域の活性化、また大地震によって被害を受けた農業を、これからどのように復興させるのかなど、くまモンとともに学んだ。



“You, Challenger” Projectがスタート

自分達の活動で未来を拓いていくプロジェクト、“You, Challenger” Project が今年度もスタート。このプロジェクトは龍谷大学での学びを背景に、参加している全10学部の学生の姿をクローズアップする。詳しくは“You, Challenger”サイトで。サイトも学生自らが主体となって運営に関わり、定期的な活動記事の情報発信をおこなっている。

<http://www.ryukoku.ac.jp/challenger/>
もしくは「龍谷 チャレンジャー」を検索。



熊本地震復興支援ボランティアの活動報告会を実施

2016年7月、龍谷大学ボランティア・NPO活動センターが「平成28年熊本地震復興支援ボランティア」の報告会を実施した。同センターは、2016年4月に発生した熊本地震の復興支援ボランティアとして、7月8日から4日間、熊本県阿蘇市・南阿蘇村でボランティア活動をおこなった。報告会では、現地で活動してきた学生が、ボランティア活動を通じて感じたこと、学んだこと、地域住民との交流などを含めた被災地域の最新の現状を報告し共有した。



生態系のバランスを保つカギ…、 近藤倫生教授らが世界で初めて解明

龍谷大学理工学部の近藤倫生教授と島根大学生物資源科学部の舞木昭彦准教授は、多種からなる生態系のバランスを保つために、生物の棲む生息地はどのような特徴を備えているべきか世界で初めて理論的に突き止めた。「様々な生息地がみんな違って、しかも互いに『ほどほど』につながっていること」が、自然のバランスを保つカギ…。本研究成果は、2016年4月13日発行の英国科学誌「Scientific Reports」に掲載された。



内田欣吾教授、光照射で超撥水表面を作成できるシステムを開発

2016年6月、理工学部の内田欣吾研究室は、光を照射すると色を可逆的に変える「フォトクロミック化合物」を改良して、光照射で可逆的に「超親水性表面」を作成できるシステムを開発した。カタツムリの殻と同様に、表面と汚れの間に水が入り込むため、洗浄することなく汚れを落とせるシートの開発などが期待できる。これは「分子の集合様式を光で制御するシステム」を利用しており、作製時間の短縮などが検討されている。



深草キャンパス「和顔館」が 第57回BCS賞に入選

2015年11月、深草キャンパスの「和顔館」が「第57回BCS賞」を受賞した。BCS賞は、わが国の良好な建築資産の創出を図り、文化の進展と地球環境保全に寄与することを目的に、日本建設業連合会が毎年国内の優秀な建築作品を表彰している。「和顔館」は、多様な学びに対応する教室のほか、新たに図書館機能を整備。学生の主体的な学びを支援する「ラーニングcommons」を設置して、学生の主体的な学びや活動ができる場となっている。



「世界農業遺産プロジェクト推進 会議」を開催

滋賀県では、琵琶湖集水域全体の農林水産業の取り組みを「水・物質循環」などのキーワードのもとに、平成30年度の「世界農業遺産」認定申請に向けて調査検討をしている。「世界農業遺産プロジェクト推進会議」の座長やアドバイザーに本学の教授が就任した。「世界農業遺産」は、伝統的な農林水産業及び、世界的に重要な農林水産業システムを、国連食糧農業機関が認定するもの。これまで、世界では15カ国36地域、日本では8地域が認定されている。



短期大学部が福祉教育をおこなう高等学校と高大連携協定に関する包括協定を締結

2016年4月、短期大学部が、福祉教育をおこなう京都・滋賀・大阪の高等学校4校と高大連携協定に関する包括協定を締結した。この包括協定は、社会福祉にかかる教育研究などの様々な分野において、人的交流及び知的資源の相互活用、その他の連携協力を推進することにより、それぞれの活動の充実・改善を図り、双方の教職員及び学生・生徒の資質の向上に努めることを目的とする。



大津市議会が龍谷大学図書館と連携、大学図書館の学術情報が利用可能になった

2016年4月、龍谷大学図書館は大津市議会議員が大学の学術情報資料を利用することに合意し、5月には、大津市議会議員を招き、図書館利用説明会・図書館ツアーをおこなった。本学は、大津市議会と2011年にパートナーシップ協定を締結し、政策課題についての意見交換や専門の見地から助言をおこなう機会を設けている。議会局は「市議の政策立案に役立てていきたい」と話している。



龍谷大学が滋賀県市議会議長会とパートナーシップ協定締結

2016年7月、龍谷大学は滋賀県市議会議長会(滋賀県内の各市議会の議長で構成される会)と、パートナーシップ協定を締結した。大学と市議会議長会による連携協定は、全国では初の試みとなる。今回の協定は、龍谷大学と滋賀県市議会議長会が連携し、滋賀県市議会議長会の事業である「軍師ネットワーク事業」に協力。地域社会における適切な対処と発展を目的とし、政策課題についての意見交換や専門の見地から助言を行う。



龍谷大学が米原市と包括協定を締結

2016年8月、龍谷大学が米原市と相互協力のもと地域発展に寄与することを目的に包括連携協定を締結した。これまで「米原市まちづくり基本条例をつくる会」に発足当時から本学教授が学識経験者として関わり、米原市職員が本学大学院に在籍し研究するなど交流を重ねてきた。平尾道夫米原市長は「龍谷大学の知見、知識、情報を市が抱える課題の解決に活かさせてほしい」と期待を寄せている。

10 | Book Café

新刊紹介

*値段はすべて税込価格で表示

*Book Caféについては龍谷大学
学長室（広報）まで

01

出版助成



『規律と教養のフランス近代』

上垣 豊(法学部教授) 著

ナポレオン時代から第三共和政未までのフランス教育史を概観し、規律と教養という二つのキーワードで分析。これまで別々に論じられてきた民衆向けの初等教育と、エリート教育である中等・高等教育を関連付けながら、革命後のフランスで、時代の要請を受けて、どのように教育が再編し、改変されていったかを考察した。

2016年1月刊/363頁/ミネルヴァ書房/7020円

02

出版助成

『中国の環境行財政

— 社会主義市場経済における環境経済学』

金 紅実(政策学部准教授) 著



環境問題を資本主義市場経済体制と社会主義計画経済体制の共通する命題として位置づけ、公害対策や森林政策、湖沼問題を取り上げ、環境問題の解決のために果たされた公共政策の諸機能を移行期経済体制下の中国の環境行財政システムの発展過程を通して考察を行った。また身近な湖沼環境が公共政策の名目によって破壊され消失していく実態に言及した。

2016年2月刊/211頁/昭和堂/3024円

03

出版助成

『法人・制度体・国家 — オーリウにおける法理論と国家的なものを求めて—』

時本 義昭(社会学部准教授) 著



現代行政法学の父であるモーリス・オーリウの全体像を憲法学の立場から明らかにしようとした。オーリウを同時代の諸情勢(社会学の台頭・自然法論・法学教育改革)のなかに位置づけたいうえて、前著(『国民主権と法人理論』2011年)で用いた法人理論によって、オーリウの法理論の基盤である制度体論を詳細に分析し、その結果を法的国家論に適用した。

2015年12月刊/447頁/成文堂/9720円

01

共同研究活動

龍谷大学社会科学研究所叢書第108巻

『ヨーロッパ私法の展望と日本民法法の現代化』

川角 由和(法科大学院教授)・中田 邦博(法科大学院教授) 編者、若林 三奈(法学部教授)・栗田 昌裕(法学部准教授) 共著



ヨーロッパ私法は、EU指令などを手段として、その統一化が推し進められてきた。本書にまとめた研究は、ヨーロッパ私法の動きに触発されつつ、私法をめぐる現代的な課題を分析し、どのように対応すべきなのかを問うている。さらに、そうした動きを、日本においてどのように受け止めるべきであるのかについても検討している。

2016年2月刊/541頁/日本評論社/7560円

02

共同研究活動

龍谷大学社会科学研究所叢書第109巻

『人口減少化における地域経済の再生 京都・滋賀・徳島に見る取り組み』



松岡 憲司(経済学部教授) 編者、辻田 素子(経済学部教授)・木下 信(経済学部専任講師)・北野 裕子(経済学部非常勤講師) 著、姜 紅祥(経済学部非常勤講師) 共著

高齡化、人口減少など様々な問題が地域経済にも深刻な影響を及ぼしている。一方、新しい地域経済モデルを構築しようという試みが各地でおこなわれている。本書では、人口減少という課題の下で地域経済の生き残りを実現するための新しい地域経済モデルの可能性を京都府北部地域・徳島県・滋賀県の事例について検討した。

2016年3月刊/226頁/新論社/3024円

03

共同研究
活動

龍谷大学社会科学研究所叢書第110巻
『「再国民化」に揺らぐヨーロッパ
新たなナショナリズムの隆盛と移民排斥のゆくえ』
高橋 進(法学部教授)・石田 徹(政策学部教
授)編著、渡辺 博明(法学部教授)著



統合による平和・協働・繁栄を進め
てきたヨーロッパは歴史的な危機
にある。統一通貨ユーロの危機・緊
縮政策や難民をめぐる対立、英国
のEU離脱決定などが示すように、

ナショナリズムと排外主義の台頭、分断と分裂に直面している。本書は、このような状況を「再国民化」という概念で捉え、西欧デモクラシーの問題点と課題を明らかにしている。

2016年3月刊/229頁/法律文化社/4104円

04

共同研究
活動

龍谷大学社会科学研究所叢書第111巻
『アフリカの女性とリプロダクション
国際社会の開発言説をたおやかに超えて』
落合 雄彦(法学部教授)編著



リプロダクションや出産において医
療は極めて重要だが、その重要性
のみを強調しすぎると、リプロダク
ションの全体像がみえにくくなる。
本書は、産科医療中心の国際社会
の開発言説に強く影響されながら
もそれをたおやかに超えて生きるアフリカの女性達に
焦点をあて、彼女達のリプロダクションのいまを複眼
的に活写する。

2016年3月刊/292頁/晃洋書房/4104円

05

共同研究
活動

龍谷大学善本叢書第32巻
『選擇註解鈔』
川添 泰信(文学部教授)編



『選擇註解鈔』は存覚の撰述であり、初期真宗において法然の主著である『選擇集』を全体的統一的に解説したものである。叢書の内容は底本の写真版、対校本の写真版、さらに底本と対校本の校合、研究論文、

古写本の刊本、研究文献目録の内容となっている。

2016年3月刊/750頁/永田文昌堂/15120円

善本叢書とは、龍谷大学大宮図書館に所蔵されている貴重な善本を世に公開することを主目的に研究をおこない、その成果として出版されるものである。

06

共同研究
活動

龍谷大学仏教文化研究叢書第34巻
『仏教とカウンセリングの意義
—悩みに対する宗教的・心理的アプローチ』
友久 久雄(文学部客員教授)・
吉川 悟(文学部教授)編



人間が他の高等哺乳動物と異なる
ところは、悩みを持つことにあると
いえる。そしてその悩みを如何に解
決するかが、私達人間にとって重要
な課題である。本書はその悩みを解

決するために、龍谷大学仏教文化研究所のメンバーが、「人と悩み」、「救いの仏教」、「癒しのカウンセリング」、「仏教とカウンセリングの接点」と題し執筆したものである。

2016年3月刊/295頁/自照社出版/4968円

01

みんなの
本棚

『端楽(はたらく)』
大來 尚順(2004年度文学部卒業/
僧侶・翻訳家/山口県)著



僧侶兼サラリーマンという二足の
草鞋を履く著書のリアルな実体験
に基き、仕事上の様々な場面での
「心の持ち方」を仏教の立場から紐
解く本です。

2016年3月刊/198頁/アルファポリス/1620円
/書評「東京新聞」2016年6月18日

02

みんなの
本棚

『超カンタン英語で仏教がよくわかる』
大來 尚順(2004年度文学部卒業/
僧侶・翻訳家/山口県)著



難しいと先入観を持たれている仏
教用語をカンタン英語で理解する
一冊。仏教用語解説のほか、各宗派
に対応したお経の英訳と日本語意
訳なども掲載。

2016年7月刊/216頁/扶桑社/864円/

出版情報

01:『心臓物語 グリム兄弟編著『ドイツ伝説集』アルニム・ブレンターノ編集『少年の魔法の角笛』

中山 淳子(文学部名誉教授)著

グリム兄弟『ドイツ伝説集』とアルニム・ブレンターノ『少年の魔法の角笛』から「心臓物語 プレンベルガー」を訳し16世紀の原典と比較検討した。

2015年11月刊/66頁/丸善出版/2160円

02:『改訂版 英語の冠詞がわかる本』

正保 富三(文学部元教授)著

英語の冠詞の扱いについて根本的な考え方を提示している。旧版以来20年を経過したので、その間に進展をとげた英語コーパスに基づいて改訂した。

2016年4月刊/172頁/研究社/1512円

03:『マルチ・エスニック・ジャパニーズ—〇〇系日本人の変革力』

李 洙任(経営学部教授)共著

多様な出自を持つ「〇〇系日本人」を取り上げ、マルチ・エスニック化と排外主義が共存する日本社会の現在を分析し、その課題と未来像を論じる。

2016年5月刊/256頁/明石書店/3024円

04:『Japan's Demographic Revival: Rethinking Migration, Identity and Sociocultural Norms』

李 洙任(経営学部教授)共著

持続可能な日本の解決策として移民受け入れ政策は避けられない。社会的、文化的構造の壁を越え、「日本社会を支えるのはもはや日本人だけではない」現状を論じる一冊。

2015年12月刊/440頁/World Scientific Pub Co Inc/USD166.00(約17000円)

05:『メカトロニクスの基礎』

渋谷 恒司(理工学部教授)著

機械工学と電子工学の隔合分野であるメカトロニクスについてわかりやすく解説した教科書。

2016年3月刊/164頁/森北出版/2592円

06:『トーマス・ベルンハルト『ある子供』』

今井 敦(経済学部教授)翻訳

戦後オーストリアを代表する作家であり、死後四半世紀を経てなお、読者を魅了し続けるトーマス・ベルンハルトの「自伝」五部作の一つ。

2016年4月刊/157頁/松籟社/1728円

07:『マーケティング・フレームワーク』

原尻 淳一(経済学部客員教授)著

コトラーのマーケティング・プロセスに最適なフレームワークを配置することで、誰でもわかりやすくビジネスプランが策定できる本になりました。

2016年7月刊/160頁/日本経済新聞出版社/1080円

08:『搭載!!人工知能』

木村 睦(理工学部教授)著

初心者むけの人工知能の解説本であるが、しっかり読めば、今流行りのディープニューラルネットのプログラムまで自作できるでしょう。

2016年5月刊/161頁/電気書院/2376円

09:『Q&A辺野古から問う日本の地方自治』

本多 滝夫(法務研究科教授)編者

本書は、昨年10月に翁長沖縄県知事が行った辺野古沖埋立承認取消処分をめぐる沖縄県と日本政府との争いを地方自治の観点からQ&Aで解説したものです。

2016年5月刊/94頁/自治体研究社/1200円

10:『デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法—記録遺産学への視点—』

随年 佳博(事務職員)・大木 彰(事務職員)共著

デジタルアーカイブの意義や実務について解説する本書の中で、大宮図書館の事例としてこれまで実施してきた取り組みについて詳しく紹介している。

2016年4月刊/240頁/晃洋書房/2700円

11:『21世紀の哲学をひらく—現代思想の最前線への招待』

増田 靖彦(経営学部准教授)編者

21世紀に入りすでに10年以上が経過した現在、現代の哲学・思想はどう展開し、何が論点になっているのかを読み解くための思想地図である。

2016年5月刊/296頁/ミネルヴァ書房/3780円

12:『笑い』

増田 靖彦(経営学部准教授)翻訳

「笑い」を引き起こす「おかしさ」はどこから生まれるのか。ヘルクソン哲学の独創性があふれる思考の営み。

2016年6月刊/322頁/光文社古典新訳文庫/1058円

13:『栄養教育論(第5版)』

宮崎 由子(農学部教授)編者

2015年に新しく改定された管理栄養士国家試験出題基準に準拠し、栄養教育マネジメントの応用力を習得するための教科書として出版した。

2016年4月刊/270頁/化学同人/3456円

出版情報

14:『新臨床栄養学(栄養ケアマネジメント第3版)』

宮崎 由子(農学部教授)共著

自己免疫疾患の概要・病因・診断基準について解説し
栄養食療法を含む治療方法を掲載。

2016年4月刊/484頁/医歯薬出版/3996円

15:『雑談の美学—言語研究からの再考』

村田 和代(政策学部教授)編者

待望の「雑談」の言語学。人間社会を形づくる公的・私
的場面を含んだ日常生活の様々な雑談の本質に切り込
む実証的研究論文13編を収録している。

2016年2月刊/344頁/ひつじ書房/3024円

16:『子どもと法』

丹羽 徹(法学部教授)編者

子どもに関わる法について、家族、社会などの空間を軸
に、憲法、民法、少年法、社会福祉などの視点から、子ど
もの権利を中心に考える入門書。

2016年7月刊/186頁/法律文化社/2592円

17:『近江商人の酒造経営と北関東の地域社会—真岡 市辻善兵衛家文書からみた近世・近代—』

窪田 和美(短期大学部教授)共著

創業宝暦5(1755)年、酒造業の安定経営に向けて近
江商人辻善兵衛家には、どのようなエートスが伝えられ
てきたのか、同家所蔵の古文書により分析した。

2016年5月刊/249頁/岩田書院/6264円

18:『東欧の想像力—現代東欧文学ガイド—』

國重 裕(経営学部准教授)共著

二十世紀のみならず冷戦終結後の東欧文学を、亡命・
移民作家まで含めて紹介した初の東欧ガイド・ブック。
筆者はドイツ語圏文学の項目を担当。

2016年1月刊/316頁/松籟社/2052円

19:『A History of Japanese Theatre』

Jonah Salz(国際学部教授)編者

本書は、日本演劇の古典芸能と現代演劇も世界に与え
続けている影響について全体像を提供してくれる。

2016年7月刊/589頁/Cambridge University
Press/GBP99(約13600円)

広報誌「龍谷」からプレゼント！

龍谷ミュージアムペア招待券・・・・・・・・・・10組20名様
龍谷大学オリジナル八つ橋・・・・・・・・・・5名様



ご希望の方は、はがきにご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号（龍谷大学関係者は卒業年度・学部なども）及び広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。あて先は右記「プレゼント」係まで。

締め切りは12月9日(金)必着。

応募多数の場合は抽選で。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

広報誌『龍谷』82号(デジタル版) 読者アンケートのお願い

今後のよりよい広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆様のご意見をお聞かせください。

なお、アンケートは、こちらから回答いただけます。

<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>



読者のひろば

広報誌「龍谷」には卒業生の活躍が特集されていて、いつも刺激を受けています。

卒業生 S

電車のなかなどで読んでいるので、今回からコンパクトサイズになってよかったです。

在学生保護者 Y

学生時代を思い出すよききっかけになっています。

今後とも、つながりを大切に歩んでいけたらと思います。

卒業生 T

お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また、「龍谷人」などへの推薦や情報をお寄せください。いずれも以下のあて先まで。※いただいた個人情報は、広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

《プレゼント・お便りのあて先》

龍谷大学 学長室（広報）
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話：075（645）7882
FAX：075（645）8692
E-mail：kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

編集委員

青戸 英夫、安食 真城、石橋 良太、井手 健二、乾 真理、今川 嘉文、上手 礼子、落合 雪野、小野 勝士、笠井 賢紀、岸本 直之、近藤 裕彦、島根 良枝、谷垣 岳人、出羽 孝行、徳田 眞三、中根 智子、仁井田 都、藤原 直仁、松本 賢、村井 龍治、山口 大、若林 雅子(50音順)

事務局

増田 滋彦、田中 秀樹、藤崎 智史、橋本 和美

広報誌「龍谷」82号
2016年9月12日発行

編集：龍谷大学編集委員会
制作：龍谷大学学長室（広報）
発行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
電話 075(642)1111 (代表)

龍谷大学ホームページURL
<http://www.ryukoku.ac.jp>



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY